はまかぜ

最終号　７０，　　Ｒ５．３．３１

慌てず、焦らず、諦めず

◆　春風が心地よく、柔らかな日差しが振り注ぐ中、須賀川通りの桜も咲き誇り満開となっています。

はまゆう作業所にお世話になって７度目の春を迎えました。「光陰矢の如し」と言いますが、あっという間の６年間でした。『はまかぜ』もこれが最終号となります。

今、振り返ってみても冷や汗の方が多く、よく無事に勤めることができたというのが正直な感想です。何よりも利用者の皆さんやそのご家族、職員に助けられた日々でした。

◆　着任当初より、利用者の減少、建物の老朽化といった課題や新しい事業へのチャレンジ等々、何をどうして良いか分からず、それこそ暗中模索の中から自分自身に導き出した答えらしきものが、『慌てず、焦らず、諦めず』ということでした。

課題が山積する中、一気に解決しようと慌てることなく、じっくりと腰を据えて焦らず、目の前の身近な課題を一つずつ解決していこう、ただし、最後まで諦めることのないようにとの思いからです。もちろん、できなかったことの方が多く、偉そうなことは言えませんが、心意気だけはこのように持っていたつもりです。

◆　６年間の中で利用者の皆さんに一番喜ばれたのは、１泊研修旅行の復活です。十数年振りの実施でした。広島、宮島方面に行き、この時の話題は今も作業中によく出ます。ただ、コロナ禍のまん延により、これ以後は実施できていません。コロナ禍が収まれば、是非実施して欲しいと願っています。

また、グループホーム「はまゆうホーム」の建設も大きな仕事でした。これは、はまゆう会の長年の目標でもありました。土地の選定から取得、補助金の申請、行政への働きかけ等多くの皆さんの協力を得て、令和２年４月に開設することができました。

６年間の思い出を語ればきりがありませんが、利用者の皆さんの温かい笑顔に支えられたことが何よりの思い出です。

◆　さて、詩人金子みすずの『わたしと小鳥とすずと』の中に、「みんなちがって、みんないい」という一節があります。はまゆうの仲間達は、それぞれの個性を発揮しながらもお互いを認め合い、支え合い、仲間を大切にするという長年培った作業所の伝統を受け継ぎ「みんな違って、みんないい」の世界を体現しているようです。

はまゆう作業所で多くのことを学ばさせていただきました。

私自身は、３月をもって所長を退任しますが、理事としてこれからも、はまゆう作業所と関わりを持たせていただきます。

６年間、本当にお世話になりました。

そして、ありがとうございました。

私と小鳥と鈴と

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速く走れない　。

私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。